

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	ファッション文化専門学校 DOREME
設置者名	学校法人支倉学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
服飾・家政 専門課程	デザイン造形学科服飾造形専攻(2年制)	夜・通信	612時間	160時間	
	デザイン造形学科デザイン専攻(2年制)	夜・通信	648時間	160時間	
	スタイリスト学科スタイリスト専攻(2年制)	夜・通信	1185時間	160時間	
	スタイリスト学科メイクアップ専攻(2年制)	夜・通信	1185時間	160時間	
	ファッションビジネス学科ショッププロデュース専攻(2年制)	夜・通信	1116時間	160時間	
	ファッションビジネス学科ブランドMD専攻(2年制)	夜・通信	1080時間	160時間	
	ファッションビジネス学科ファッションアドバイザー専攻(2年制)	夜・通信	1167時間	160時間	
	アーツ&クラフト学科シルバークセサリー&ジュエリー専攻(2年制)	夜・通信	1864時間	160時間	
	アーツ&クラフト学科レザーワーク専攻(2年制)	夜・通信	1828時間	160時間	
	クリエイター学科デザイン専攻(1年制)	夜・通信	390時間	80時間	
	クリエイター学科アーツ&クラフト専攻(1年制)	夜・通信	1076時間	80時間	
	クリエイター学科ビジネス専攻(1年制)	夜・通信	594時間	80時間	
(備考) 服飾デザイン学科(夜間)については募集停止中、今年度の在学生0人の為記載せず。					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://www.hasekura.ac.jp/school/outline/>

「実務経験のある教職員等による授業科目の一覧」にて公表

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	ファッション文化専門学校 DOREME
設置者名	学校法人支倉学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.hasekura.ac.jp/wp/wp-content/uploads/r3public_roster.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社役員	2020.5.29～ 2023.5.28	下記項目に係る案件の審議と承認 (1) 予算・事業計画及び決算・事業報告 (2) (1)以外の重要な義務の負担 又は権利の放棄 (3) 合併・解散 (4) 役員・評議員人事 (5) (1)～(4)以外の重要事項財務改善の助言
非常勤	会社役員	2020.5.29～ 2023.5.28	同上
非常勤	司法書士・行政書士	2021.2.26～ 2023.5.28	同上
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	ファッション文化専門学校 DOREME
設置者名	学校法人 支倉学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
【作成について】 教務担当者が学生の状況や授業内容をもとにカリキュラム会議を実施。次年度のカリキュラム、シラバスの制作に取り組む。カリキュラム決定後、各講師に授業依頼を行い、シラバス作成をしてもらう。シラバスの書式は全科目同じ形式を教務部が定めており、授業担当者は授業概要、学習到達目標、授業計画、教科書及び教材、成績評価の目安と方法を記入することになっている。	
【時期について】 8月頃から11月中旬に本年度の授業査定、振り返りを実施している。学生アンケートや校長中心の査定委員が授業見学を実施し、次年度の授業内容に活かしている。夏季、秋季にカリキュラム会議を実施し、教務全員で話し合いを行う。その後シラバスを制作し、2月の職員会議での校長承認で正式決定となる。学生に向けては、4月のオリエンテーション(履修)期間に各担当から説明をし、必要な道具や教材なども併せて申請させる。また、本学HPにてシラバスを公表している。	
授業計画書の公表方法	https://www.hasekura.ac.jp/school/outline/ にて公表
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
成績評価は、毎学期ごとに行われる講師会議の中で、「成績評価について」の資料を基に教務担当から授業担当者に毎回説明をしている。科目の内容にあった評価方法と目安を授業担当者が設定し、シラバスに記載している。出席率、試験、課題評価等の方法で学生の到達度をはかり評価を行う。単位未取得となった学生が出た際は、単位認定会議にて学生の状況を調査し、追試や補講の実施の是非を検討し、学生の状況に合わせたフォローアップを徹底している。	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 本学の評価基準は、100点法によるものとし、標語で表す場合は、次の基準による。 A: 100～90点 B: 89～75点 C: 74～60点 D: 59～45点 E: 44点以下 A～Dは合格となり、所定の単位が認定される。Eは不合格となり、その科目の単位は認められない。評価方法はシラバスに記載され、各授業の最初の回でも授業担当者から評価方法について説明を行っている。また、本校HPでもシラバスを公開し、基準の周知に努めている。 また、多くの授業で比重の高い出席率に関しては、毎月の職員会議でクラス担当者が報告し合い、出席率が低下気味の学生は早い段階で個人面談を行っている。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>https://www.hasekura.ac.jp/school/outline/ 「客観的な指標に基づく成績の分布を示す資料」にて公表</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 卒業認定は学則第17条「本校に所定の修業年限以上在学し、学則に定める規定科目の時間数・単位数、入学金及び学費等の納入を怠っていない者には、単位認定会議の儀を経て校長が卒業を認定し卒業証書を授与する。」と定め、適切に取り組んでいる。また、毎年度全学生に配布する「学生のしおり」にも記載し、学則の写しも併せてオリエンテーション期間にクラス担当から説明をしている。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>https://www.hasekura.ac.jp/school/outline/ 「卒業の認定に関する方針(ディプロマポリシー)」にて公表</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	ファッション文化専門学校 DOREME
設置者名	学校法人 支倉学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.hasekura.ac.jp/school/outline/
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	同上
事業報告書	同上
監事による監査報告（書）	同上

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
服飾・家政		服飾・家政専門課程	デザイン造形学科 服飾造形専攻	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1954 単位時間/単位	126 単位時間/単位	1188 単位時間/単位	640 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			1954 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人の内数		16人	0人	2人	11人	13人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
8月頃からカリキュラム会議を実施。次年度のカリキュラム、シラバスの制作に取り組む。カリキュラム決定後、各講師に授業依頼を行い、シラバスに授業概要、学習到達目標、授業計画、教科書及び教材、成績評価の目安と方法を記入してもらう。授業が決定し次第年度内にHPで公開する。学生に向けては、4月のオリエンテーション（履修）期間に各担当から説明をし、必要な道具や教材なども併せて申請させる。
成績評価の基準・方法
本学の評価基準は、100点法によるものとし、標語で表す場合は、次の基準による。 A：100～90点 B：89～75点 C：74～60点 D：59～45点 E：44点以下 A～Dは合格となり、所定の単位が認定される。Eは不合格となり、その科目の単位は認められない。評価方法はシラバスに記載され、各授業の最初の回でも授業担当者から評価方法について説明を行っている。また、本校HPでもシラバスを公開し、基準の周知に努めている。
卒業・進級の認定基準
卒業認定はディプロマポリシーにて「本校に所定の修業年限以上在学し、学則に定める規定科目の時間数・単位数、入学金及び学費等の納入を怠っていない者には、単位認定会議の儀を経て校長が卒業を認定し卒業証書を授与する。」と定め、適切に取り組んでいる。全学生に配布する「学生のしおり」にも記載し、説明をしている。

学修支援等
実技教科が中心の学科の為、出席率が非常に重要である。授業時間だけでは足りない場合はクラス担当が放課後も補講等で支援している。また、進路相談や学校生活での悩みもクラス担当者だけでなく、各部門担当者が連携して丁寧に対処し、学生一人一人に合わせた支援を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
8人 (100%)	2人 (25%)	6人 (75%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) ファッション・アパレル業界(販売・縫製・お直し) 株式会社ビック・ママ、ファッション・ルシエ、メンズアキタソーイング 等			
(就職指導内容) 学校生活全般で就職意識を高める指導をし、毎年3月に就職活動準備講座、4月に校内企業説明会、2年前期にキャリア開発という就職活動の支援講座を設置している。それ以外にも就職指導担当者が個別面談、相談、添削、面接練習を行い、学生個々へ丁寧な指導を心がけている。			
(主な学修成果(資格・検定等)) パターンメイキング技術検定、洋裁技術検定、フォーマルスペシャリスト検定、色彩検定			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
18人	0人	0%
(中途退学の主な理由) 令和3年度においては中途退学者無し。		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担当による面談やメンタルヘルスケア担当者によるカウンセリングを随時実施し、問題が大きくなる前に対応に努めている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
服飾・家政		服飾・家政専門課程	デザイン造形学科 デザイン専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1954 単位時間/単位	126 単位時間/単位	1188 単位時間/単位	640 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			1954 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数 (学科単位)	兼任教員数 (学科単位)	総教員数 (学科単位)		
40人の内数	18人	0人	2人	11人	13人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
8月頃からカリキュラム会議を実施。次年度のカリキュラム、シラバスの制作に取り組む。カリキュラム決定後、各講師に授業依頼を行い、シラバスに授業概要、学習到達目標、授業計画、教科書及び教材、成績評価の目安と方法を記入してもらう。授業が決定し次年度内にHPで公開する。学生に向けては、4月のオリエンテーション(履修)期間に各担当から説明をし、必要な道具や教材なども併せて申請させる。
成績評価の基準・方法
本学の評価基準は、100点法によるものとし、標語で表す場合は、次の基準による。 A: 100~90点 B: 89~75点 C: 74~60点 D: 59~45点 E: 44点以下 A~Dは合格となり、所定の単位が認定される。Eは不合格となり、その科目の単位は認められない。評価方法はシラバスに記載され、各授業の最初の回でも授業担当者から評価方法について説明を行っている。また、本校HPでもシラバスを公開し、基準の周知に努めている。
卒業・進級の認定基準
卒業認定はディプロマポリシーにて「本校に所定の修業年限以上在学し、学則に定める規定科目の時間数・単位数、入学金及び学費等の納入を怠っていない者には、単位認定会議の儀を経て校長が卒業を認定し卒業証書を授与する。」と定め、適切に取り組んでいる。全学生に配布する「学生のしおり」にも記載し、説明をしている。
学修支援等
(概要) 実技教科が中心の学科の為、出席率が非常に重要である。授業時間だけでは足りない場合はクラス担当が放課後も補講等で支援している。また、進路相談や学校生活での悩みもクラス担当者だけでなく、各部門担当者が連携して丁寧に対処し、学生一人一人に合わせた支援を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
4人 (100%)	1人 (25%)	3人 (75%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) ファッション・アパレル業界(販売) 有リヴォリューション 等			

<p>(就職指導内容) 学校生活全般で就職意識を高める指導をし、毎年3月に就職活動準備講座、4月に校内企業説明会、2年前期にキャリア開発という就職活動の支援講座を設置している。それ以外にも就職指導担当者が個別面談、相談、添削、面接練習を行い、学生個々へ丁寧な指導を心がけている。</p>
<p>(主な学修成果(資格・検定等)) パターンメイキング技術検定、洋裁技術検定、フォーマルスペシャリスト検定、色彩検定</p>
<p>(備考) (任意記載事項)</p>

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
11人	2人	18.2%
<p>(中途退学の主な理由) 病気治療の為(精神)通信制高校出身者で入学直後より不登校</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担当による面談やメンタルヘルスケア担当者によるカウンセリングを随時実施し、問題が大きくなる前に対応に努めている。</p>		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
服飾・家政	服飾・家政専門課程	スタイリスト学科 スタイリスト専攻	○				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
2年	昼	1933 ○単位時間/単位	講義	演習	実習	実験	実技
			339 ○単位時間/単位	1026 ○単位時間/単位	568 ○単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
		1948 (○単位時間/単位)					
生徒総定員数 (学科単位)	生徒実員	うち留学生数	専任教員数 (学科別)	兼任教員数	総教員数		
10人の内数	9人	0人	2人	12人	14人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
8月頃からカリキュラム会議を実施。次年度のカリキュラム、シラバスの制作に取り組む。カリキュラム決定後、各講師に授業依頼を行い、シラバスに授業概要、学習到達目標、授業計画、教科書及び教材、成績評価の目安と方法を記入してもらう。授業が決定し次年度内にHPで公開する。学生に向けては、4月のオリエンテーション(履修)期間に各担当から説明をし、必要な道具や教材なども併せて申請させる。
成績評価の基準・方法
本学の評価基準は、100点法によるものとし、標語で表す場合は、次の基準による。 A: 100~90点 B: 89~75点 C: 74~60点 D: 59~45点 E: 44点以下 A~Dは合格となり、所定の単位が認定される。Eは不合格となり、その科目の単位は認められない。評価方法はシラバスに記載され、各授業の最初の回でも授業担当者から評価方法について説明を行っている。また、本校HPでもシラバスを公開し、基準の周知に努めている。
卒業・進級の認定基準
卒業認定はディプロマポリシーにて「本校に所定の修業年限以上在学し、学則に定める規定科目の時間数・単位数、入学金及び学費等の納入を怠っていない者には、単位認定会議の儀を経て校長が卒業を認定し卒業証書を授与する。」と定め、適切に取り組んでいる。全学生に配布する「学生のしおり」にも記載し、説明をしている。
学修支援等
(概要) 外部実習が多い学科であり、出席率が重要視される。クラス担任がこまめな面談を実施しつつ、兼任教員も一丸となって学生を支援している。就職先も多岐にわたる為、一人一人に合ったキャリアプランを提案、検討している。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
5人 (100%)	0人 (0%)	5人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等)			
ファッション・アパレル業界(スタイリスト) (株)アズノウアズ、(有)リヴォルーション、(株)ジョイフルまるやま 等			
(就職指導内容) 学校生活全般で就職意識を高める指導をし、毎年3月に就職活動準備講座、4月に校内企業説明会、2年前期にキャリア開発という就職活動の支援講座を設置している。それ以外にも就職指導担当者が個別面談、相談、添削、面接練習を行い、学			

生個々へ丁寧な指導を心がけ行っている。地元企業の就職先開拓も積極的に行っている。
(主な学修成果(資格・検定等)) パーソナルカラー検定、ネイリスト検定、フォーマルスペシャリスト検定、色彩検定、ファッション販売検定
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
11人	0人	0%
(中途退学の主な理由) 令和3年度においては中途退学者無し。		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担当による面談やメンタルヘルスケア担当者によるカウンセリングを随時実施し、問題が大きくなる前に対応に努めている。必要に応じて保護者とも協力し、状況回復に尽力している。職員のメンタルヘルス研修会も実施している。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
服飾・家政	服飾・家政専門課程	スタイリスト学科 メイクアップ専攻	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1933 ○単位時間/単位	339 ○単位時間/単位	1026 ○単位時間/単位	568 ○単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
		1948 (単位時間/単位)					
生徒総定員数 (学科単位)	生徒実員	うち留学生数	専任教員数 (学科別)	兼任教員数	総教員数		
10人の内数	0人	0人	2人	12人	14人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
8月頃からカリキュラム会議を実施。次年度のカリキュラム、シラバスの制作に取り組む。カリキュラム決定後、各講師に授業依頼を行い、シラバスに授業概要、学習到達目標、授業計画、教科書及び教材、成績評価の目安と方法を記入してもらう。授業が決定し次年度内にHPで公開する。学生に向けては、4月のオリエンテーション(履修)期間に各担当から説明をし、必要な道具や教材なども併せて申請させる。
成績評価の基準・方法
本学の評価基準は、100点法によるものとし、標語で表す場合は、次の基準による。 A: 100~90点 B: 89~75点 C: 74~60点 D: 59~45点 E: 44点以下 A~Dは合格となり、所定の単位が認定される。Eは不合格となり、その科目の単位は認められない。評価方法はシラバスに記載され、各授業の最初の回でも授業担当者から評価方法について説明を行っている。また、本校HPでもシラバスを公開し、基準の周知に努めている。
卒業・進級の認定基準
卒業認定はディプロマポリシーにて「本校に所定の修業年限以上在学し、学則に定める規定科目の時間数・単位数、入学金及び学費等の納入を怠っていない者には、単位認定会議の儀を経て校長が卒業を認定し卒業証書を授与する。」と定め、適切に取り組んでいる。全学生に配布する「学生のしおり」にも記載し、説明をしている。
学修支援等
(概要) 外部実習が多い学科であり、出席率が重要視される。クラス担任がこまめな面談を実施しつつ、兼任教員も一丸となって学生を支援している。就職先も多岐にわたる為、一人一人に合ったキャリアプランを提案、検討している。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
2人 (100%)	0人 (0%)	2人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等)			
ファッション・アパレル業界(販売) (株)アンビテックス、オズファインクロス			
(就職指導内容) 学校生活全般で就職意識を高める指導をし、毎年3月に就職活動準備講座、4月に校内企業説明会、2年前期にキャリア開発という就職活動の支援講座を設置している。それ以外にも就職指導担当者が個別面談、相談、添削、面接練習を行い、学			

生個々へ丁寧な指導を心がけ行っている。地元企業の就職先開拓も積極的に行っている。
(主な学修成果(資格・検定等)) パーソナルカラー検定、ネイリスト検定、フォーマルスペシャリスト検定、色彩検定、ファッション販売検定
(備考)(任意記載事項) 特になし。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
4人	1人	25%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担当による面談やメンタルヘルスケア担当者によるカウンセリングを随時実施し、問題が大きくなる前に対応に努めている。必要に応じて保護者とも協力し、状況回復に尽力している。職員のメンタルヘルス研修会も実施している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
服飾・家政		服飾・家政専門課程	ファッションビジネス学科 ショッピングプロデュース専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1826 <u>単位時間</u> /単位	396 <u>単位時間</u> /単位	736 <u>単位時間</u> /単位	694 <u>単位時間</u> /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			1826 <u>単位時間</u> /単位				
生徒総定員数 (学科単位)	生徒実員	うち留学生数	専任教員数 (学科単位)	兼任教員数 (学科単位)	総教員数 (学科単位)		
30人の内数	11人	0人	2人	10人	12人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(8月頃からカリキュラム会議を実施。次年度のカリキュラム、シラバスの制作に取り組む。カリキュラム決定後、各講師に授業依頼を行い、シラバスに授業概要、学習到達目標、授業計画、教科書及び教材、成績評価の目安と方法を記入してもらう。授業が決定し次第年度内にHPで公開する。学生に向けては、4月のオリエンテーション(履修)期間に各担当から説明をし、必要な道具や教材なども併せて申請させる。
成績評価の基準・方法
本学の評価基準は、100点法によるものとし、標語で表す場合は、次の基準による。 A: 100~90点 B: 89~75点 C: 74~60点 D: 59~45点 E: 44点以下 A~Dは合格となり、所定の単位が認定される。Eは不合格となり、その科目の単位は認められない。評価方法はシラバスに記載され、各授業の最初の回でも授業担当者から評価方法について説明を行っている。また、本校HPでもシラバスを公開し、基準の周知に努めている。
卒業・進級の認定基準
卒業認定はディプロマポリシーにて「本校に所定の修業年限以上在学し、学則に定める規定科目の時間数・単位数、入学金及び学費等の納入を怠っていない者には、単位認定会議の儀を経て校長が卒業を認定し卒業証書を授与する。」と定め、適切に取り組んでいる。全学生に配布する「学生のしおり」にも記載し、説明をしている。
学修支援等
(概要) 検定取得を主に目指す学科であり、合格率向上のために生活習慣から指導をしている。また就職意識も高い学生が多く、コミュニケーション能力などのキャリア教育も1年次から必修で教えている。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
1人 (100%)	0人 (0%)	1人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) ファッション・アパレル業界(縫製) イタバシニット			

<p>(就職指導内容) 学校生活全般で就職意識を高める指導をしている。また、この学科は男子学生が多いが、アパレル業界の新卒採用ではメンズブランドが多くは無い為、より手厚い指導を心がけている。</p>
<p>(主な学修成果(資格・検定等)) 色彩検定、ファッション販売検定、ファッションビジネス能力検定、フォーマルスペシャリスト検定</p>
<p>(備考) (任意記載事項)</p>

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
5人	1人	20%
<p>(中途退学の主な理由) 病気治療の為</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担当によるこまめな面談の実施を徹底している。また、学生同士の結びつきを強化するため、学生活動や行事の充実化をはかっている。2020年以降は入学前面談も実施し、入学学科とのミスマッチを防ぐよう指導を徹底している。</p>		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
服飾・家政	服飾・家政専門課程	ファッションビジネス学科 ブランドMD専攻	○				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1790 <u>単位時間</u> /単位	396 <u>単位時間</u> /単位	700 <u>単位時間</u> /単位	694 <u>単位時間</u> /単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			1790 <u>単位時間</u> /単位				
生徒総定員数 (学科単位)	生徒実員	うち留学生数	専任教員数 (学科単位)	兼任教員数 (学科単位)	総教員数 (学科単位)		
30人の内数	8人	0人	2人	10人	12人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(8月頃からカリキュラム会議を実施。次年度のカリキュラム、シラバスの制作に取り組む。カリキュラム決定後、各講師に授業依頼を行い、シラバスに授業概要、学習到達目標、授業計画、教科書及び教材、成績評価の目安と方法を記入してもらう。授業が決定し次第年度内にHPで公開する。学生に向けては、4月のオリエンテーション(履修)期間に各担当から説明をし、必要な道具や教材なども併せて申請させる。
成績評価の基準・方法
本学の評価基準は、100点法によるものとし、標語で表す場合は、次の基準による。 A: 100~90点 B: 89~75点 C: 74~60点 D: 59~45点 E: 44点以下 A~Dは合格となり、所定の単位が認定される。Eは不合格となり、その科目の単位は認められない。評価方法はシラバスに記載され、各授業の最初の回でも授業担当者から評価方法について説明を行っている。また、本校HPでもシラバスを公開し、基準の周知に努めている。
卒業・進級の認定基準
卒業認定はディプロマポリシーにて「本校に所定の修業年限以上在学し、学則に定める規定科目の時間数・単位数、入学金及び学費等の納入を怠っていない者には、単位認定会議の儀を経て校長が卒業を認定し卒業証書を授与する。」と定め、適切に取り組んでいる。全学生に配布する「学生のしおり」にも記載し、説明をしている。
学修支援等
(概要) 検定取得を主に目指す学科であり、合格率向上のために生活習慣から指導をしている。また就職意識も高い学生が多く、コミュニケーション能力などのキャリア教育も1年次から必修で教えている。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 令和3年度卒業生無し			
(就職指導内容) 学校生活全般で就職意識を高める指導をしている。また、この学科は男子学生が多いが、アパレル業界の新卒採用ではメンズブランドが多くは無いため、より			

手厚い指導を心がけている。
(主な学修成果(資格・検定等)) 色彩検定、ファッション販売検定、ファッションビジネス能力検定、フォーマルスペシャリスト検定
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
6人	2人	33.3%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担当によるこまめな面談の実施を徹底している。また、学生同士の結びつきを強化するため、学生活動や行事の充実化をはかっている。2020年以降は入学前面談も実施し、入学学科とのミスマッチを防ぐよう指導を徹底している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
服飾・家政		服飾・家政専門課程	ファッションビジネス学科 ファッションアドバイザー 専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1877 単位時間/単位	447 単位時間/単位	736 単位時間/単位	694 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			1877 単位時間/単位				
生徒総定員数 (学科単位)		生徒実員	うち留学生数	専任教員数 (学科単位)	兼任教員数 (学科単位)	総教員数 (学科単位)	
30人の内数		8人	0人	2人	11人	12人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(8月頃からカリキュラム会議を実施。次年度のカリキュラム、シラバスの制作に取り組む。カリキュラム決定後、各講師に授業依頼を行い、シラバスに授業概要、学習到達目標、授業計画、教科書及び教材、成績評価の目安と方法を記入してもらう。授業が決定し次第年度内にHPで公開する。学生に向けては、4月のオリエンテーション(履修)期間に各担当から説明をし、必要な道具や教材なども併せて申請させる。
成績評価の基準・方法
本学の評価基準は、100点法によるものとし、標語で表す場合は、次の基準による。 A: 100~90点 B: 89~75点 C: 74~60点 D: 59~45点 E: 44点以下 A~Dは合格となり、所定の単位が認定される。Eは不合格となり、その科目の単位は認められない。評価方法はシラバスに記載され、各授業の最初の回でも授業担当者から評価方法について説明を行っている。また、本校HPでもシラバスを公開し、基準の周知に努めている。
卒業・進級の認定基準
卒業認定はディプロマポリシーにて「本校に所定の修業年限以上在学し、学則に定める規定科目の時間数・単位数、入学金及び学費等の納入を怠っていない者には、単位認定会議の儀を経て校長が卒業を認定し卒業証書を授与する。」と定め、適切に取り組んでいる。全学生に配布する「学生のしおり」にも記載し、説明をしている。
学修支援等
(概要) 検定取得を主に目指す学科であり、合格率向上のために生活習慣から指導をしている。また就職意識も高い学生が多く、コミュニケーション能力などのキャリア教育も1年次から必修で教えている。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
4人 (100%)	1人 (25%)	3人 (75%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) ファッション・アパレル業界(販売・企画) ㈱ヤングファッション研究所 等			

(就職指導内容) 学校生活全般で就職意識を高める指導をしている。また、この学科は男子学生が多いが、アパレル業界の新卒採用ではメンズブランドが多くは無い為、より手厚い指導を心がけている。
(主な学修成果(資格・検定等)) 色彩検定、ファッション販売検定、ファッションビジネス能力検定
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
8人	0人	0%
(中途退学の主な理由) 令和3年度においては中途退学者無し。		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担当によるこまめな面談の実施を徹底している。また、学生同士の結びつきを強化するため、学生活動や行事の充実化をはかっている。2020年以降は入学前面談も実施し、入学学科とのミスマッチを防ぐよう指導を徹底していく。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
服飾・家政		服飾・家政専門課程	アーツ&クラフト学科 シルバーアクセサリ &ジュエリー専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1900 単位時間/単位	144 単位時間/単位	1044 単位時間/単位	712 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			1900 単位時間/単位				
生徒総定員数 (学科単位)	生徒実員	うち留学生数	専任教員数 (学科単位)	兼任教員数 (学科単位)	総教員数 (学科単位)		
10人の内数	2人	0人	2人	5人	7人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
8月頃からカリキュラム会議を実施。次年度のカリキュラム、シラバスの制作に取り組む。カリキュラム決定後、各講師に授業依頼を行い、シラバスに授業概要、学習到達目標、授業計画、教科書及び教材、成績評価の目安と方法を記入してもらう。授業が決定し次第年度内にHPで公開する。学生に向けては、4月のオリエンテーション(履修)期間に各担当から説明をし、必要な道具や教材なども併せて申請させる。
成績評価の基準・方法
本学の評価基準は、100点法によるものとし、標語で表す場合は、次の基準による。 A: 100~90点 B: 89~75点 C: 74~60点 D: 59~45点 E: 44点以下 A~Dは合格となり、所定の単位が認定される。Eは不合格となり、その科目の単位は認められない。評価方法はシラバスに記載され、各授業の最初の回でも授業担当者から評価方法について説明を行っている。また、本校HPでもシラバスを公開し、基準の周知に努めている。
卒業・進級の認定基準
卒業認定はディプロマポリシーにて「本校に所定の修業年限以上在学し、学則に定める規定科目の時間数・単位数、入学金及び学費等の納入を怠っていない者には、単位認定会議の儀を経て校長が卒業を認定し卒業証書を授与する。」と定め、適切に取り組んでいる。全学生に配布する「学生のしおり」にも記載し、説明をしている。
学修支援等
(概要) 実技中心の学科で、提出課題での評価が重要視されている。元々経験がある学生はほばいないため、0からのスタートになるため、丁寧な学習支援に努めている。講師は職人肌でプロ意識が高く厳しい為、クラス担任が生活習慣や学習方法など総合的にフォローしている。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (0%)	0人 (%)	0人 (0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 令和3年度在籍者無し			

<p>(就職指導内容)</p> <p>就職希望者が少ない学科ではあるが、将来の人生設計やお金の使い方などの授業を通して、就職意欲を高めたり、進学意思の確認をしたりしている。就職希望の場合は、入念な面接練習を行っている。</p>
<p>(主な学修成果(資格・検定等))</p> <p>色彩検定、ジュエリーコーディネーター検定</p>
<p>(備考) (任意記載事項)</p>

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
1人	1人	100%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>病気治療の為</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>クラス担当によるこまめな面談の実施を徹底している。また、学生同士の結びつきを強化するため、学生活動や行事の充実化をはかっている。2020年以降は入学前面談も実施し、入学学科とのミスマッチを防ぐよう指導を徹底している。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
服飾・家政		服飾・家政専門課程	アーツ&クラフト学科 レザーワーク専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1864 <u>単位時間</u> /単位	144 <u>単位時間</u> /単位	900 <u>単位時間</u> /単位	820 <u>単位時間</u> /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			1864 <u>単位時間</u> /単位				
生徒総定員数 (学科単位)	生徒実員	うち留学生数	専任教員数 (学科単位)	兼任教員数 (学科単位)	総教員数 (学科単位)		
10人の内数	0人	0人	2人	5人	7人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
8月頃からカリキュラム会議を実施。次年度のカリキュラム、シラバスの制作に取り組む。カリキュラム決定後、各講師に授業依頼を行い、シラバスに授業概要、学習到達目標、授業計画、教科書及び教材、成績評価の目安と方法を記入してもらう。授業が決定し次年度内にHPで公開する。学生に向けては、4月のオリエンテーション(履修)期間に各担当から説明をし、必要な道具や教材なども併せて申請させる。
成績評価の基準・方法
本学の評価基準は、100点法によるものとし、標語で表す場合は、次の基準による。 A: 100~90点 B: 89~75点 C: 74~60点 D: 59~45点 E: 44点以下 A~Dは合格となり、所定の単位が認定される。Eは不合格となり、その科目の単位は認められない。評価方法はシラバスに記載され、各授業の最初の回でも授業担当者から評価方法について説明を行っている。また、本校HPでもシラバスを公開し、基準の周知に努めている。
卒業・進級の認定基準
卒業認定はディプロマポリシーにて「本校に所定の修業年限以上在学し、学則に定める規定科目の時間数・単位数、入学金及び学費等の納入を怠っていない者には、単位認定会議の儀を経て校長が卒業を認定し卒業証書を授与する。」と定め、適切に取り組んでいる。全学生に配布する「学生のしおり」にも記載し、説明をしている。
学修支援等
(概要) 実技中心の学科で、提出課題での評価が重要視されている。元々経験がある学生はほぼいないため、0からのスタートになるため、丁寧な学習支援に努めている。講師は職人肌でプロ意識が高く厳しい為、クラス担任が生活習慣や学習方法など総合的にフォローしている。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
1人 (100%)	0人 (0%)	1人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 東洋ワーク(株)			

<p>(就職指導内容)</p> <p>就職希望者が少ない学科ではあるが、将来の人生設計やお金の使い方などの授業を通して、就職意欲を高めたり、進学意思の確認をしたりしている。就職希望の場合は、入念な面接練習を行っている。</p>
<p>(主な学修成果(資格・検定等))</p> <p>色彩検定</p>
<p>(備考) (任意記載事項)</p>

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
1人	0人	0%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>令和3年度においては中途退学者無し。</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>クラス担当によるこまめな面談の実施を徹底している。また、学生同士の結びつきを強化するため、学生活動や行事の充実化をはかっている。2020年以降は入学前面談も実施し、入学学科とのミスマッチを防ぐよう指導を徹底している。</p>		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
服飾・家政	服飾・家政専門課程	クリエイター学科 デザイン専攻					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	1028 単位時間/単位	単位時間/単位	648 単位時間/単位	380 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
		1028 単位時間/単位					
生徒総定員数 (学科単位)	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
5人の内数	3人	0人	2人	5人	7人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
8月頃からカリキュラム会議を実施。次年度のカリキュラム、シラバスの制作に取り組む。カリキュラム決定後、各講師に授業依頼を行い、シラバスに授業概要、学習到達目標、授業計画、教科書及び教材、成績評価の目安と方法を記入してもらう。授業が決定し次年度内にHPで公開する。学生に向けては、4月のオリエンテーション(履修)期間に各担当から説明をし、必要な道具や教材なども併せて申請させる
成績評価の基準・方法
本学の評価基準は、100点法によるものとし、標語で表す場合は、次の基準による。 A: 100~90点 B: 89~75点 C: 74~60点 D: 59~45点 E: 44点以下 A~Dは合格となり、所定の単位が認定される。Eは不合格となり、その科目の単位は認められない。評価方法はシラバスに記載され、各授業の最初の回でも授業担当者から評価方法について説明を行っている。また、本校HPでもシラバスを公開し、基準の周知に努めている。
卒業・進級の認定基準
卒業認定はディプロマポリシーにて「本校に所定の修業年限以上在学し、学則に定める規定科目の時間数・単位数、入学金及び学費等の納入を怠っていない者には、単位認定会議の儀を経て校長が卒業を認定し卒業証書を授与する。」と定め、適切に取り組んでいる。全学生に配布する「学生のしおり」にも記載し、説明をしている。
学修支援等
(概要) 2年間の課程を修了した者だけが入学できる学科のため、実技が中心である。本人の意欲を高め、高難度な作品制作に挑む。より高い技術の習得が出来るよう、丁寧な指導を徹底している。同時進行で就職指導も強化し、就職率を高めている。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
1人 (100%)	0人 (0%)	1人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等)			
ファッション・アパレル業界(縫製) 白石ポリテックス工業(株)			
(就職指導内容)			
デザイナーやパタンナーを希望する学生が多いが、求人は非常に少ない為、他のジャンルでも就職できるよう面談を重ねている。また、面接練習等も頻繁に行い、就職率の向			

上に努めている。
(主な学修成果(資格・検定等)) 洋裁検定、パターンメイキング技術検定、フォーマルスペシャリスト検定
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
1人	0人	0%
(中途退学の主な理由) 令和3年度においては中途退学者無し。		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担当によるこまめな面談の実施を徹底している。また、学生同士の結びつきを強化するため、学生活動や行事の充実化をはかっている。上級学科としてカリキュラムの充実を図り、やる気を削がないよう、本人のレベルにあった教育をしている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士			
服飾・家政		服飾・家政専門課程	クリエイター学科 アーツ&クラフト専攻					
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		開設している授業の種類				
				講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	932 単位時間/単位	単位時間/単位	648 単位時間/単位	428 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
				1076 単位時間/単位				
生徒総定員数 (学科単位)		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
5人の内数		1人	0人	2人	1人	3人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
8月頃からカリキュラム会議を実施。次年度のカリキュラム、シラバスの制作に取り組む。カリキュラム決定後、各講師に授業依頼を行い、シラバスに授業概要、学習到達目標、授業計画、教科書及び教材、成績評価の目安と方法を記入してもらう。授業が決定し次年度内にHPで公開する。学生に向けては、4月のオリエンテーション(履修)期間に各担当から説明をし、必要な道具や教材なども併せて申請させる
成績評価の基準・方法
本学の評価基準は、100点法によるものとし、標語で表す場合は、次の基準による。 A: 100~90点 B: 89~75点 C: 74~60点 D: 59~45点 E: 44点以下 A~Dは合格となり、所定の単位が認定される。Eは不合格となり、その科目の単位は認められない。評価方法はシラバスに記載され、各授業の最初の回でも授業担当者から評価方法について説明を行っている。また、本校HPでもシラバスを公開し、基準の周知に努めている。
卒業・進級の認定基準
卒業認定はディプロマポリシーにて「本校に所定の修業年限以上在学し、学則に定める規定科目の時間数・単位数、入学金及び学費等の納入を怠っていない者には、単位認定会議の儀を経て校長が卒業を認定し卒業証書を授与する。」と定め、適切に取り組んでいる。全学生に配布する「学生のしおり」にも記載し、説明をしている。
学修支援等
(概要)2年間の課程を修了した者だけが入学できる学科のため、実技が中心である。本人の意欲を高め、高難度な作品制作に挑む。より高い技術の習得が出来るよう、丁寧な指導を徹底している。同時進行で就職指導も強化し、就職率を高めている。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
2人 (100%)	1人 (50%)	1人 (50%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等)			
シルバーアクセサリー制作工房への実績がある。多くは起業を希望し、フリーマーケットやネット販売等を通じて収入を得ている。講義でも成功する起業の方法や効果的な宣伝方法を教授し、在学中からショップ運営を開始させている。			

<p>(就職指導内容)</p> <p>就職希望者が少ない専攻ではあるが、将来の人生設計やお金の使い方などの授業を通して、就職意欲を高めたり、進学意思の確認をしたりしている。就職希望の場合は、入念な面接練習を行っている。</p>
<p>(主な学修成果(資格・検定等))</p> <p>各種コンテストへの参加。 JAPAN JEWELLERY COMPETITION UNDER 26 部門入賞実績あり。</p>
<p>(備考) (任意記載事項)</p>

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
2人	0人	0%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>令和3年度においては中途退学者無し。</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>この学科は自立して自分で学費を支払っている学生が多い為、学校独自の授業料減免制度を設けている。他にも奨学金担当者によるこまめな面談を行い、経済的不安を払拭できるよう努めている。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
服飾・家政		服飾・家政専門課程	クリエイター学科 ビジネス専攻				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	824 ○単位時間/単位	126 ○単位時間/単位	324 ○単位時間/単位	446 ○単位時間/単位	単位時間/単位	440 単位時間/単位
			896 ○単位時間/単位				
生徒総定員数 (学科単位)		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
5人の内数		2人	0人	2人	4人	6人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
8月頃からカリキュラム会議を実施。次年度のカリキュラム、シラバスの制作に取り組む。カリキュラム決定後、各講師に授業依頼を行い、シラバスに授業概要、学習到達目標、授業計画、教科書及び教材、成績評価の目安と方法を記入してもらう。授業が決定し次年度内にHPで公開する。学生に向けては、4月のオリエンテーション（履修）期間に各担当から説明をし、必要な道具や教材なども併せて申請させる	
成績評価の基準・方法	
<p>本学の評価基準は、100点法によるものとし、標語で表す場合は、次の基準による。 A：100～90点 B：89～75点 C：74～60点 D：59～45点 E：44点以下 A～Dは合格となり、所定の単位が認定される。Eは不合格となり、その科目の単位は認められない。評価方法はシラバスに記載され、各授業の最初の回でも授業担当者から評価方法について説明を行っている。また、本校HPでもシラバスを公開し、基準の周知に努めている。</p>	
卒業・進級の認定基準	
卒業認定はディプロマポリシーにて「本校に所定の修業年限以上在学し、学則に定める規定科目の時間数・単位数、入学金及び学費等の納入を怠っていない者には、単位認定会議の儀を経て校長が卒業を認定し卒業証書を授与する。」と定め、適切に取り組んでいる。全学生に配布する「学生のしおり」にも記載し、説明をしている。	
学修支援等	
（概要）2年間の課程を修了した者だけが入学できる学科のため、実習が中心である。本人の意欲を高め、インターンシップ等を通して実学を学ぶ。同時進行で就職指導も強化し、就職率を高めている。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
5人 (100%)	1人 (20%)	4人 (80%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等)			
(有)オйкаワデニム、(株)ラルフローレン、フジ・スタイリング(株)等			
(就職指導内容)			
インターンシップや学外活動を通して、社会人基礎力を向上させている。進路指導は1人1人丁寧に面談し、サポートしている。			

(主な学修成果 (資格・検定等))
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
5人	0人	0%
(中途退学の主な理由) 令和3年度においては中途退学者無し。		
(中退防止・中退者支援のための取組) この学科は自立して自分で学費を支払っている学生が多い為、学校独自の授業料減免制度を設けている。他にも奨学金担当者によるこまめな面談を行い、経済的不安を払拭できるよう努めている。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
デザイン 造形学科	180,000円	490,000円	352,930円	その他内訳 入学選考料 10,000円 施設維持費 160,000円 教科書・教材代 182,930円
スタイリ スト学科	180,000円	490,000円	348,135円	その他内訳 入学選考料 10,000円 施設維持費 160,000円 教科書・教材代 178,135円
ファッシ ョンビジ ネス学科	180,000円	490,000円	303,076円	その他内訳 入学選考料 10,000円 施設維持費 160,000円 教科書・教材代 133,076円
アーツ& クラフト 学科	180,000円	490,000円	601,198円	その他内訳 入学選考料 10,000円 施設維持費 240,000円 教科書・教材代 351,198円
クリエー ター学科 (1年制)	0円	490,000円	197,381円	その他内訳 施設維持費 80,000円 教科書・教材代 82,781円 卒業諸費 25,600円
修学支援 (任意記載事項)				
推薦入学、特待生入学、ファッション特待生入学、社会人入学制度→レベルに応じて入学金減免。家族入学優遇制度、めるへんの森幼稚園卒園生優遇制度、DOREME 奨励金、入学手続き金分割納入制度、授業料分割納入制度。				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.hasekura.ac.jp/wp/wp-content/uploads/r4public_evaluation2.pdf 「学校評価 自己点検・自己評価報告書」にて公表		
学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制) 評価委員会(外部講師、企業代表者、卒業生、地元住民等7名)を設立し、6月頃(決算終了後)委員会を実施。自己評価内容に従い、教育課程や就職率・入学生募集等の評価結果を真摯に受け止め、学校運営の改善点を見つけ、学校長を中心に全教職員にて是正する計画を立てている。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
(有)コラボレーション・マル	2022年6月1日～ 2023年5月31日	スタイリスト会社 評議員
(有)針惣	2022年6月1日～ 2023年5月31日	評議員
古川直磨公認会計士事務所	2022年6月1日～ 2023年5月31日	税理士
&A color office	2022年6月1日～ 2023年5月31日	講師
(株)AZOTH	2022年6月1日～ 2023年5月31日	アパレル製造 卒業生
(有)ONEanother	2022年6月1日～ 2023年5月31日	アパレル企業 評議員
ファッション文化専門学校 DOREME 特別顧問	2022年6月1日～ 2023年5月31日	評議員 卒業生
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.hasekura.ac.jp/wp/wp-content/uploads/r4public_evaluation3.pdf 「学校評価 学校関係者評価報告書」にて公表		
第三者による学校評価(任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.hasekura.ac.jp/school/outline/
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	H104361010045
学校名	ファッション文化専門学校DOREME
設置者名	学校法人支倉学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		12人	11人	12人
内 訳	第Ⅰ区分	-	-	
	第Ⅱ区分	-	-	
	第Ⅲ区分	-	-	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				12人
(備考) 9月30日付けで休学した学生がいた為、前半期と後半期で人数に変動あり				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定		0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)		0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況		0人	0人
「警告」の区分に連続して該当		0人	0人
計		0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
年間	前半期	後半期	
		0人	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)		0人	0人
G P A等が下位4分の1		0人	0人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況		0人	0人
計		0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。